

特集 地域における生涯学習機会の充実について

巻頭言 ● 8 学社融合の考え方 ◆伊藤正吉

座談会 ● 10

様々な機関・施設における生涯学習機会の提供について

◆出席者：木村 孟／大野 忠／宮操一／鈴木敏恵／司会：北村幸久

論文 ● 20 創造的な人材の育成に向けて ◆和田龍幸

● 24 「新しい風」はどこまで広がったか ◆永井順國

エッセイ ● 28 卒業生の戻れる場所 ◆服部幸應

事例紹介① ● 30 生涯学習時代と大学博物館 ◆東京大学総合研究博物館

事例紹介② ● 33 ミニ大学院アフターファイブコース ◆豊橋技術科学大学

事例紹介③ ● 36 「開かれた学校」を家庭・地域・学校の連携で…市川市コミュニティスクール ◆千葉県市川市教育委員会

事例紹介④ ● 39 生涯学習を支援する教育ボランティア活動 ◆国立科学博物館

事例紹介⑤ ● 42 宇宙学校—開かれた研究所を目指して ◆宇宙科学研究所

解説 ● 44 最近の生涯学習審議会の動きについて ◆生涯学習局生涯学習振興課・社会教育課

特別記事 いじめの問題に関する総合的な取組について

● 52 いじめ問題の解決に向けて

一人一人が行動するとき

「児童生徒の問題行動等に関する調査研究協力者会議」報告 ◆初等中等教育局中学校課

1 ある日の学校訪問記

◆駒ヶ根市立赤穂南小学校 ◆長野県

4 天然記念物歳時記「花ごよみ

◆赤井谷地沼野植物群落 ◆福島県

表2 名作シリーズ ◆麗子肖像

(麗子五歳之像)

表3 文化財紹介

◆上中町熊川宿 ◆福井県

カラー

6 鑑賞席

◆プロジェクト・フォー・サバイバル
生存への意志

60 焦点—文教施策

65 お知らせ

67 どんな講座—んな講座—大学の公開講座から

◆富山医科薬科大学

68 ポイント生涯学習

◆電子博物館プロジェクトの推進

70 科学は、ま—理工系へのいざない

◆京都大学超高層電波研究センター

73 都道府県発—教育・学術文化—スポーツニュース

◆岩手県 ◆神奈川県 ◆富山県
◆滋賀県 ◆兵庫県

76 現代スポーツあれこれ

◆スポーツサイエンスの時代

78 ぼくたち、わたしたちのワイクランド

◆島根県海士町教育委員会

80 海外教育ニュース

82 文学のふもと ◆城の崎にて

84 編集後記

電子博物館 プロジェクトの推進

生涯学習局社会教育課

1 マルチメディアと博物館

博物館は、自然、科学、歴史等の幅広い分野にわたる人々の知的関心にこたえ、創造的かつ探求的な学習を支援する施設として、近年急速な整備が進み(全国に約三七〇〇館)、年間に博物館を訪れる人も三億人に迫る勢いとなっている。博物館は地域における生涯学習の拠点施設として一層充実することが期待されている。

マルチメディアは、文字、音声、動画像といった様々な情報をデジタル化することで、一体的に処理、蓄積、表現し、ネットワークを通じて自由に伝えることができ、教育分野においてもその積極的な活用が今後の重要な課題となっている。

豊富かつ貴重な実物資料が集積する博物館にとっても、マルチメディアは博物館機能の一層の高度化、多彩かつ魅力的な博物館サ-

② マルチメディア展示の開発

①で開発したデータベースもリソース(資源)として活用、バーチャルリアリティや3D映像など最新のマルチメディア技術を活用して、例えばもはや体験することができない時代(例えば恐竜の時代)や見ることができない世界(例えば人体の中)を疑似体験する展示等をモデル開発。

③ マルチメディア・ネットワークの研究

地域の博物館や学校、自宅等からいながらにして、実際に入館したのと同じような体験ができるネットワーク上の仮想国立科学博物館(バーチャル・サイエンス・ミュージアム)の在り方について試行的に研究。将来の広帯域通信網時代を視野に入れつつ、当面はインターネット上の展開を計画している。

上記の成果については、館内での情報サービスや実験的な展示をはじめ、成果の一部をCD-ROM化したり、インターネット・ホームページ(国立科学博物館 <http://www.kahaku.go.jp>) 上で公開する予定である。

このほか、国立科学博物館では、国立天文台を中心に、昨年一月から本格運用となった国内外の天文台等の天体観測画像を全国の博物館、プラネタリウム等に提供する公開天文台ネットワーク(PAONET)にも積極的に参加し、観測画像を科学系博物館等で活用するためのソフトウェアを開発しており、

ビスの実現を図る上で多様な可能性を持つものであり、その活用に大きな期待が寄せられている。

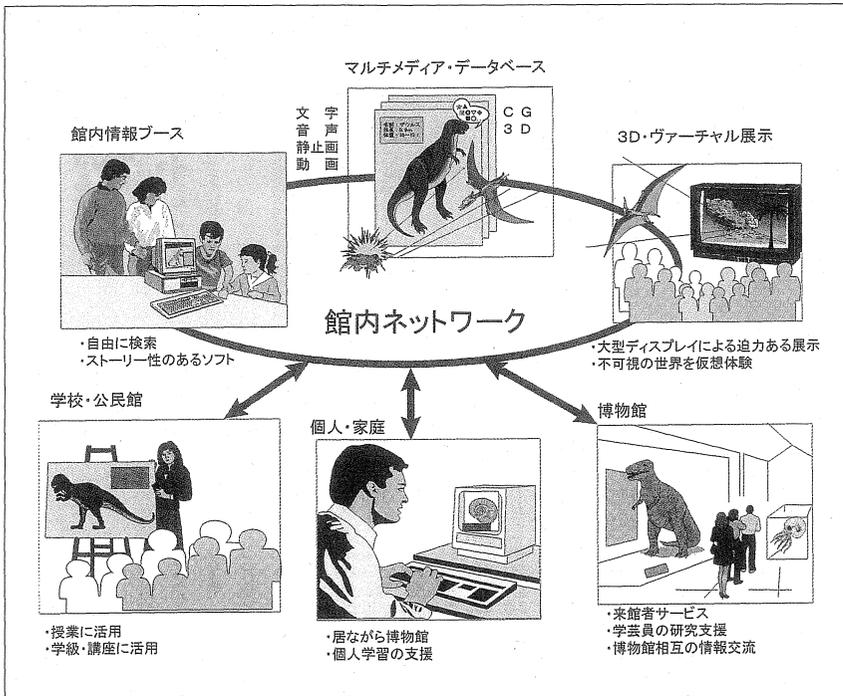
現在、我が国でもインターネットが急速に普及し、ホームページを開発する博物館が増えてきている。また、東京国立博物館を中心に文化情報システムの構築が進められており、文化資産をデジタル映像の形で記録・保存することを目的とした「デジタル・アーカイブ構想」の推進を目的とした団体がこの春設立されるなど、博物館側においてもマルチメディアの活用に対する関心が高まってきている。

また国際的にも、G7各国を中心とした情報関係プロジェクトの一つに「電子博物館」が採択され、我が国をはじめ各国がこの共同プロジェクトに参加している。

このような状況を踏まえながら、文部省では本年度から新たに、最新のマルチメディア技術の活用を中心に、今後の博物館の情報化

希望する博物館に配布している。

また、同館が実施している科学実験、標本制作等の各種講座等に遠隔地の博物館や学校からでも参加できるようなテレビ会議システム



ム等を活用したネットワーク実験への取組も検討されている。

2 電子博物館 パイロット事業の展開

国立科学博物館では、平成七年度に上野本館及び新宿、筑波等の各分館にLANを敷設整備し、また各館を専用高速回線で結ぶなど、情報通信基盤の整備を進めている。

同館が新たに取り組む「電子博物館パイロット事業」の計画概要は以下のとおり。

① マルチメディア・データベースの構築

動植物・化石等、国立科学博物館が所蔵する豊富かつ貴重な標本・資料(約二〇〇万点)を、文字、動画像、音声等の様々な情報形態で記録、併せてCG(コンピュータ・グラフィックス)や三次元映像技術も活用し、ほぼ「実物」に近い形で蓄積するマルチメディア・データベースを開発。

特集 ● 第15期 中央教育審議会 第一次答申

●巻頭言

21世紀を展望した新しい
教育を目指して

奥田幹生

●座談会

21世紀を展望した教育改革

—出席者— 有馬朗人／黒田あゆみ／中川志郎
森 隆夫／(司会) 富岡賢治

●論文

中教審答申を読んで

—天笠 茂／森田洋司／詫摩武俊／松下俱子
掛川 久／清水康敬／米村伝治郎／櫻井 修

●エッセイ

—里中満智子／薄田泰元

どんな講座こんな講座—大学の公開講座から

—東京成徳大学・名古屋大学

都道府県発—教育・学術・文化・スポーツのユース

—青森県・新潟県・千葉県・山口県

編集後記

▽今月の特集テーマは、「地域における生涯学習機会の充実について」です。生涯学習もすっかり定着した感がありますが、学習意欲が高まるほど学習機会の提供・充実が大きな問題となります。本年四月に出された生涯学習審議会の答申を紹介しながら、生涯学習の今後を考えます。▽アトラクタオリンピックが終わって一月余りが過ぎました。日本選手の応援に、また、すばらしいレベルの競技の連続に寝不足になった方も多かったと思います。決勝進出はならなかったとはいえブラジル戦など二勝した男子サッカー、女子マラソンの有森選手、男女柔道陣の活躍、あまり知られていなかった(私だけでしょ)かヨットの重・木下チーム等々たくさんさんの感動を与えてくれました。また、陸上の男子短距離や女子長

距離のようにメインスタジアムでの活躍も目立ちました。金三、銀六、銅五のメダルの数に様々な声もあるようですが、日本選手はすばらしい活躍をされました。アシデントや実力を発揮できなかった選手もいます、若い選手もたくさんいます、今後の活躍も期待できるものと思います。私個人としては、女子マラソンの浅利選手や陸上短距離の金沢イボンヌ選手、朝原選手等々にはシドニーでも頑張ってもらいたいと思っています。選手の活躍と同時に国際舞台で日の丸を見ると感動をおぼえます。もともととくに国を愛する気持ちを持たなければと思います。活躍された選手の中から数名の方に、文部時報に登場いただくことを予定しております。御期待ください。(T・K)

投稿歓迎

「読者からのたより」欄への投稿、「文部時報読者アンケート」を歓迎します。本誌を読んでの感想、御意見等をお寄せください。

●「読者からのたより」投稿規定
①1件につき400字以内 ②住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記(誌上匿名可) ③掲載分には薄謝進呈
※文章を一部手直しさせていただきますことがあります。

送り先
〒100 東京都千代田区霞が関3-2-2
文部省大臣官房政策課
「文部時報」編集部
※電子メールでも受け付けております。
宛先名「jiho@monbu.go.jp」
●「文部時報読者アンケート」
文部時報読者アンケートは添付のはがきのほかに電子メールでも受け付けております。
宛先名「jiho@monbu.go.jp」

MESSC. 61 月刊

文部時報 9月号

第1438号

●著作権所有—文部省◎

●発行所—株式会社 きょうせい

本社 〒104 東京都中央区銀座7-4-12
本部 〒167-88 東京都杉並区荻窪4-30-16
電話 03-5349-6666(営業部) 振替口座 00190-0-161

●印刷所—株式会社行政学会印刷所

平成8年9月10日印刷
平成8年9月10日発行

定価600円(本体583円)(〒84円)
年間購読料7,200円

・ただし、増大号、臨時号の場合は別に代金を申し受けます。
・なお、購読のお申し込みは直接営業所またはよりの書店にてお願いします。

●本誌の掲載のうち、意見にわたる部分については、それぞれ筆者個人の見解であることをお断りいたします。

Printed in Japan 1996 ISSN 0916-9830 ●この刊行物は再生紙を使用しています。